

若手研究者のための研究キャリア発見マガジン

2019. 夏号
vol.45
[インキュビー]

incu・be

特集

異世界への トビラを 手に入れる!

- ◆ 響け、博士の力
- ◆ 探しに行こう 自分の場所
- ◆ 未来を掴む

incu•be vol.45 contents

特集 異世界へのトビラを手に入れろ!

- 06 ニコニコ学会βから研究者の力を笑顔に変えていく
(江渡 浩一郎さん 産業技術総合研究所 主任研究員/メディアアーティスト)
- 08 「ゲリラ研究会」で異分野の仲間と新領域を切り拓く
(今泉 修さん お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 助教)
- 10 「どやどや会議」から得た地上目線で研究成果を地域に
(藤野 純一さん 地球環境戦略研究機関 プログラムディレクター)

響け、博士の力

- 03 チームが呼び込むカオスを、新たな一歩に変える
Felix von Drigalski さん オムロン サイニックエックス株式会社 研究員

研究の「師匠」を見つけよう～研究室の選び方～

- 04 研究を通じて『生き残る戦略』を共に探す
多賀谷 光男さん 東京薬科大学 生命科学部 生命医科学科 教授

探しに行こう 自分の場所

- 14 現場との連携を考え抜いて切り開いた道
樋口 貴広さん 首都大学東京 人間健康科学研究科 教授
- 16 研究と教育の両方できる場 — 高専のススメ
庄司 良さん 東京工業高等専門学校 物質工学科 准教授・総合教育支援センター長

未来を掴む

- 19 異分野の研究者の中で自分の研究を語ってみよう! 「超異分野学会」
- 20 社会の課題に触れ、自分の世界を広げよう! 「キャリアディスカバリーフォーラム」
- 24 自分のアイデアで研究費を獲得しよう! 「リバネス研究費」
- 26 研究と両立しながら、ビジネスを知ろう! 「株式会社リバネスのインターンシップ」

響け、博士の力

チームが呼び込むカオスを、新たな一歩に変える

博士課程時代は、複数の異なる活動に同時に取り組む学生でした。一つはライフワーク的に今も続ける「自分の手のように繊細な動きをするロボットハンド」の研究。もう一つは、学生チームでのロボットコンテストへの出場。Airbus Shopfloor Challengeという「航空機組立の際に実存する課題解決」のためのロボットシステムの設計・構築を競う大会に参加し、優勝したこともあります*。自分の中から湧き上がるテーマに個人で取り組むだけでなく、誰かが困っているテーマにチームで取り組むことで、常に自分にとって未経験の状況へ踏みこむことができたと感じています。

私が所属するオムロン サイニックエックス株式会社 (OSX) は、近未来の社会を想像し、そこで起こり得る課題を解決する技術を研究開発する組織です。私のようなロボティクスの専門家だけでなく、AI、IoTなど多岐に渡る分野の博士号取得者が、チームで新しいプロジェクトに日夜取り組み、論文発表も推奨されています。そのような優秀な専門家が集まる産業界においても、分野横断のチームプロジェクトは難しいです。「人が集まれば、例外なくカオスになる」ということかもしれません。チームメンバーが独自の視点で問題にアプローチしますが、異なる知識の統合は専門家にとっても挑戦です。つまり、チームプロジェクトは常に知の最前線にさらされているのです。私たちのような博士号取得者が強いのは、そんな誰にとっても未経験のストレスフルな状況を耐え抜いた先に、何かが待っていることを研究の中で経験しているからでしょう。博士は、未経験と上手に付き合いながら、カオス状況を乗り越えていくのかもしれない。

実は、私がOSXに入社するきっかけになったのは、Airbus Shopfloor Challengeチームでの活動でした。OSXの研究員がイベントに会場に来ていて、私たちのプロジェクトに興味をもってくれました。一人で研究しているだけなら、この出会いはなかったかもしれません。チームプロジェクトの結果生まれた新たな一歩が、私のキャリアそのものに重なっているのも、面白いですね。

(文・伊達山 泉)



“博士の力”

未経験と付き合う力

フェリクス・フォン・ドリガルスキ
(Felix von Drigalski) さん

博士 (工学)

オムロン サイニックエックス株式会社
研究員

2018年に奈良先端科学技術大学院大学にて博士号を取得後、オムロンサイニックエックス株式会社に第一期社員として入社。研究テーマは、ものづくりにおけるロボティクスの近未来デザイン。

* Airbus Shopfloor Challenge は世界最大手の航空機メーカーである Airbus が開催する大会。ドリガルスキさんはリーダーとして、2016年大会でチームを優勝に導いている。

研究の「師匠」を見つけよう

～研究室の選び方～

「これから研究に打ち込み、研究者として成長したい」そんな思いで迎える研究室選択のとき。研究室はどんな視点で選びますか？ 本コーナーは、「自分に合った『研究の師匠』との出会いを応援したい」そんな思いから立ち上げた企画です。

研究室選びは興味あるテーマの発見だけでなく、どんな「研究者の師匠」の下で成長していくかで、今後の研究キャリアに少なからず影響を与えるものであると私たちは考えています。しかし、研究室選択の考え方や情報を得る方法は非常に少ないのが現状です。私たちは、「興味のあるテーマか」はもちろんのこと、『良き指導者は、良き研究者である』という仮説の下、「研究室の実績（論文や研究費）」と「先生の研究理念との相性」の2点が研究室選択に役立つのではと考えました。ここでは、先生方の研究理念と教育理念、インタビューを通じて気づいた研究室選びのポイントを発信していきます。

研究を通じて『生き残る戦略』を共に探す

東京薬科大学 生命科学部 生命医科学科 分子細胞生物学研究室 教授

多賀谷 光男 さん

多賀谷さんは、生物の最小単位である細胞の中でダイナミックに行われる膜の分裂・融合や物質の輸送・やりとりを研究し、複雑な生命体の機構解明を目指す研究者だ。特に小胞体やミトコンドリアなど多彩な生理現象を担う部位でのタンパク質輸送に注目し、研究している。

学生と向き合うときに多賀谷さんが重視しているのは「自主性を持って実験の計画を立て、遂行すること」だという。多賀谷さんの人生最初の研究では当初希望するラボの所属ではなかった。しかし、自ら研究を進めていくにつれて面白くなり、結果的に現在も当時のテーマを源流とした研究に携わっている。「研究はやってみて始めてわかることも多いです。まずはやってみて失敗する、という繰り返しの中で、深まっていくものがあると思います」。学生への指導も、研究の結果を出す

こと以上に、その結果に至るまでの過程を大切にしているという。

博士課程まで進んだ学生には、異なる分野のテーマに積極的に挑戦することで視野を広げ、ラボに新しいことを『加える』という姿勢を推奨している。そんな学生に対して、多賀谷さんは自身の経験や研究者同士のネットワークを駆使し、学生を応援することが先輩研究者としての役目だと思っている。留学のサポートや他の外国の研究室の紹介もその一つだ。

「研究を通じて培われるものの見方や、多様な人脈は社会でも役立つ力だと思っています」。学生が目指す道で、生き残っていくために必要な力とは何かを考え、自分にできる限りのことをする。それが多賀谷さんの後輩育成の思いだ。

(文・新庄 晃太郎)



研究理念

「成功から学ぶ 失敗から学ぶ」

自ら仮説を立て研究すれば、うまくいっても、失敗しても、新たな発見がある。失敗した時は次に失敗しないよう考え、成功した時は再度成功に導けるか考えることが大切だと思っています。

教育理念

「生き残る戦略を学ぶ」

「こうなりたい」という思いを貫き、生きていくのは簡単なことではありません。研究そのものの力だけでなく、人脈や研究に対する姿勢など、研究者として生きるための戦略を学べるような場を提供したいと考えています。

先輩達に聞いた、研究室の探し方

1：大きなラボ、小さなラボそれぞれに利点がある

大きなラボの場合、切磋琢磨しながら将来プラスになる人間関係の構築ができるのが利点です。小さなラボの場合、比較的しっかりと教授に研究をみてもらえるという利点があります。

2：研究室を出た人を調べる

教授と話をすること以外に、研究室を卒業した学生の進路を調べることで、その研究室の姿勢、方針がみえてきます。



特集

異世界への トビラを 手に入れる！

なぜ人は眠たくなるのだろうか、食糧問題をどうにか解決できないだろうか。

興味や課題感に基づく人の想いはつきません。

また、言語化できないけれども、どこか現状に対してモヤモヤしている、そんな想いを抱えている人も少なくないでしょう。

自分の想い、みなさんはどう実現しますか？

そんなとき、自分の知らない世界観を持つ人とのつながりが、自分の世界を広げ、思いがけない方向に自分を連れていく力になることがあります。

みなさんは今、そんな異世界とつながる方法をどのくらい持っていますか？

今回の特集では、型にはまらないアプローチで「異世界へのトビラ」を手に入れた3名の方取材しました。

●江渡 浩一郎さんの異世界へのトビラ

研究者の魅力を全面に出した、人をニコニコさせる研究発表会「ニコニコ学会β」

●今泉 修さんの異世界へのトビラ

異分野の研究者と少人数で集まり、境界領域の研究テーマを語り合う「ゲリラ研究会」

●藤野 純一さんの異世界へのトビラ

研究者と現場の人が寄り合い、フリートークで互いの価値観や目線を理解し合う「どやどや会議」

ニコニコ学会βから研究者の力を笑顔に変えていく

江渡 浩一郎 さん

国立研究開発法人産業技術総合研究所
人間拡張研究センター 主任研究員
/メディアアーティスト

「ニコファーレで研究者を支援しませんか」。江渡浩一郎さんの提案から、研究者の魅力を社会に届けるための活動「ニコニコ学会β」が始まった。ニコファーレという全面にLEDを使ったライブ演出とネット配信が可能な舞台上で研究発表するという奇想天外な発想を原点に作られた場は、共感が共感を呼び、参加者とともに成長していった。その原点となった江渡さんの最初の一步はどのようなものだったのだろうか。



メディアアートを通して研究支援したい

江渡さんは、初めから奇想天外な方法で研究支援をしようと思っていたわけではない。たどり着いた想いは多様な経歴に依る。少年時代にゲームが大好きだった江渡さんは、大学生のときに任天堂でゲームを制作・発売すると、次はインターネットの技術をわかりやすく表現する作品づくりに熱中しました。メディアアートの走りだ。修士時代からは、アーティストとしての作品づくりに加えて、プロジェクトディレクターとして芸術家や研究者とインターネットに関わる大掛かりな企画を制作するようになる。多様な人と切磋琢磨する経験を通して、研究や作品の発表の場づくりが好きだという自身の気持ちに気づいたという。

産業技術総合研究所では研究者として、ネット上での共創支援ソフトの開発など、活動を支える場づくりの研究を深めていった。共創には、ツールよりも仕組みが重要だという考えがあったのは、多様な人たちとコラボレーションしてきた経験からだ。

研究がまとまり自分と向き合う時間ができた2011年、ニコファーレというネットとリアルを融合させるメディア施設が設立され、メディアアーティストの血が騒いだ。「新しいメディアで新しいコンテンツを作りたい」。自分がメディアアートの活動を始めたときから時代は大きく変わったことを思い、何か新しいことに取り組みたいと考えたという。「作品づくりも好きですが、来場者に楽しんでもらうことにも充実感を感じるんです」。さまざまな企画を作り続けてきた江渡さんの思いだ。また、研究者として、研究の魅力とその成果を社会に出す難しさを実感していた。これらが、メディアアートを通して研究支援したいという江渡さんならではの思いにまとまった。

内外の人がニコニコする研究発表会をつくる

企画づくりにおいて最初のパートナーを重要視する江渡さんは、博士論文執筆中に草稿にコメントをくれた岡本真さんに声を掛けた。誰もがよく知る大手Q&Aサイトの制作を担った人物で、「学問を活かす社会へ」をビジョンに掲げ、活動して

異世界へのトビラを手に入れる方法

多様な意見を持つ仲間と、アウェイな人も巻き込む企画づくりをする

いた。彼とコンセプトを練り、「人をニコニコさせる研究の発表会をやりませんか」とさらなる仲間を集めていった。江渡さんは常に自分から自身の想いを発信している。自身の想いを発信している人の表情はきっとニコニコしていて、楽しそうに話すに違いない。笑顔の人の話だからこそ、多くの人の共感を呼び、具体的な行動へステップを移していくのだろう。

十数人の仲間を得た江渡さんは、それぞれに意見を出してもらった。これまでの企画づくりのように、自分が主導するのではなく、多様な意見の中に見えてくる共通項を背骨として企画する方法を取り、議論を繰り返した。これに今までにない手応えを感じたという。メンバーの想いを重ねたことで、より多くの共感を得て企画が発展していったのだ。

共感を集めて、異才を発掘する仕組みへ

ニコニコ学会βは5年という期間中に9回のシンポジウムが実施され、400人以上の研究者が、65万人以上の視聴者に生放送を通して研究を伝

えるユニークな場となった。普段アカデミアとの関わりがない人たちからも研究発表を聞きたいと思わせる仕掛けができたことが成功の要因なのだろう。研究成果を発表して多くの人たちの間でコミュニケーションをとることができたのは、メディアアートの力と研究の魅力をうまく融合させることができたからに違いない。

独創的な個人を発掘することを目的に国が運営する近年のプロジェクトに、ニコニコ学会βの登壇者が多く採択されているという事実がある。これは、たくさんの視聴者を研究の話で楽しませたという自信が、研究者を後押ししたためではないだろうか。江渡さんが抱いていた、研究者たちを支援をしたいという想いは実り、異才の発掘に大きく寄与している。

「突出した個人が活躍できるように国や企業が支援していく仕組みを作りたいと思っています。この目標についてはまだまだ道半ばです」。そう語る江渡さんはこれからも、面白い人材が社会に新たな価値を実装する仕組みづくりを続けていく。

(文・宮原 陽佑)

江渡 浩一郎 (えと こういちろう) プロフィール
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。博士(情報理工学)。メディアアーティストとして数々の賞を受賞し、2001年には、日本科学未来館の常設展示「インターネット物理モデル」の制作に参画している。2011年に立ち上げたニコニコ学会βはグッドデザイン賞ベスト100、アルス・エレクトロニカ賞栄誉賞を受賞。現在は、肉肉学会の副理事長も務め、お肉を通じた社会問題を議題に食のリテラシー向上に携わる。



「ゲリラ研究会」で異分野の仲間と新領域を切り拓く

今泉 修 さん

お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 助教

論文誌や学会が未だ確立していないような領域にこそ、研究の最前線がある。お茶の水女子大学の今泉修さんは、異なる専門性を持つ研究者たちと知識を持ち寄り、「身体性」という研究の最前線に挑んでいる。少人数で独自領域での戦線を展開するその様子は、いわば「ゲリラ研究会」だ。有志によるゲリラ研究プロジェクトを複数進める今泉さんのストーリーから、高い熱量を共有したチームで最前線が拡張する様子が見えてきた。



「身体」をめぐる最前線を探る

「私は、他の人とは区別された人間である」。こうした当たり前の感覚を確かなものにする手がかりとして、「身体」がある。自分の意思で動かすことができる身体を持っているからこそ、他の人とは区別された人間だ、と私たちは感じられるのだ。今泉さんは、この「身体性」と呼ばれる身体と心の密接なつながりに挑む心理学者だ。「私たちは誰もが身体を通して外の世界とやり取りしています。この身体と心のつながりは、人間の根源的で普遍的な機能ではないでしょうか。その解明が、私の実現したいことです」と今泉さんは語る。

たとえば、自分の手が自分の意思より遅れて動く映像を見たとき、それは自分の手だと実感できるだろうか。今泉さんの研究では、通常とは異なる状況を実験的に作り出し、私たちの心に起こる変化を調べていく。実際の動きと目にする動きが異なる状況をよりリアルに作り出すために、以前からVR（仮想現実）の技術に注目していた。さら

に、「自己」のような曖昧な概念を扱うときには、概念をより精緻に定義したり、整理したりする議論も重要となる。「VRに強い工学系研究者や、概念の扱いに長けた哲学者とコラボレーションすることによって、身体性研究の新しい領域を拓いていきたいですね」。

異分野の仲間と研究のエッジを攻める

今泉さんは現在、非公式な集まりの中で、これまでになかった融合的なテーマについて語り合う、ゲリラ的な研究プロジェクトに携わっている。ひとつには、学会で知り合い意気投合したVRのプログラミングを得意とする研究者と、共同研究を進めている。工学的な専門性を持つ仲間を得て、これまで技術的な制約でできなかった新しい実験が走り始めた。また、指導教員から紹介された研究者との出会いが、哲学者や脳神経科学者を交えた研究会にも発展した。哲学者を交えたミーティングでは、そもそも「自己」とは何かという、前提としていた定義から見直すような鋭い議論が

異世界へのトビラを手に入れる方法

異なる専門性を持つ人と、研究の領域を開拓する議論を繰り広げる

展開される。それによって、実験データを材料に新しい考察を生み出すことができていく。今泉さんは異分野の研究者との連携のなかで、身体性や心といった抽象的なものを具体的な数値として検証できる実験を組み立て、心理学者としての力を発揮している。自分と異なった知を持つ研究者と考えを交わすことによって、心理学だけでは実現できない考察や実験が生み出されていく手応えを感じているという。互いの持つスキルや知識を組み合わせることで、1人では見ることで見えない世界が立ち現れてきているのだ。

自分から覚悟を見せ、高い熱量を共有する

知り合いから紹介された研究者や、学会などで出会った人に、「何か一緒にやりましょう！」と言うことは簡単だが、そこから具体的な連携につなげるには何が必要なのだろうか。「意気投合したら、とにかくいち早く研究計画を作って提案するなど、自分から手を動かすことが実質のある連携の第一歩」と今泉さんは語る。単に互いのスキル

や知識をうまく補い合うだけでは、研究室や分野を超えた連携は成立しないと、今泉さんはこれまでのプロジェクトを振り返る。「身体性の不思議を解明したいという情熱を共有していて、さらに、その実現に向けて時間や労力を費やす覚悟を決めていることを相互に理解できた状態こそが、真に仲間として連携している状態といえるのではないのでしょうか」。自分から手を動かすことは、その覚悟を示すために最初にできることともいえる。

今泉さんがこれからのテーマとして関心を向けているのは、身体性と時間の関係だ。身体を動かしているかどうかで、主観的に感じられる時間の長さが変わるといふ現象がある。身体と同じく、常に私たちと共にある「時間」を探究していきたいという。「そもそも時間ってなんだ？という議論を交わせる物理学などの研究者ともコラボレーションしてみたいですね」。そう語る今泉さんは、これからも新たな仲間と共に未踏の地を開拓していくのだろう。

(文・江川 伊織)

今泉 修 (いまいずみ しゅう) プロフィール
千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻博士前期課程を修了した後に、企業での勤務経験を経て、同大学院博士後期課程を修了。博士(学術)。東京大学で日本学術振興会特別研究員として活躍した後、現職、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所助教。認知心理学を専門とし、自己身体認知をテーマにさまざまな領域とコラボレーションしつつ研究を進める。



「どやどや会議」から得た地上目線で研究成果を地域に

藤野 純一 さん

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)
都市タスクフォース プログラムディレクター

立場の異なる人たちが寄り集まって思い思いに話す「どやどや会議」をしてきたという藤野純一さん。温室効果ガス排出削減シナリオの研究成果を地域に実装することに奔走していたら、マレーシアはイスカンダルでの環境教育まで展開することに。成功の要因は人を巻き込むこと。今でこそ地上目線を理解する藤野さんも初めは現場での目線合わせができていなかったという。研究成果と実働とを結びつけてきた考え方を伺った。



▲国立環境研究所 最終勤務日 (2019.3.29) のセミナーで (撮影: 志賀薫)

「現場とのチャンネル」が必要だ

博士取得後、国立環境研究所に入所した藤野さん。初めから大学の専攻や就職に確固たる想いがあったわけではない。しかし、2000年代に温暖化問題が盛り上がると、臆せず意見をいう若手だった藤野さんは成長する機会を得た。アジア太平洋統合評価モデルによる温室効果ガス排出のシナリオ分析の研究者として、産業界などの関係者との交渉の中に放り込まれたのだ。「現実の難しさに直面しました。国だけが音頭をとっていても掲げる目標を達成できるわけではないんです」。それが自身を成長させたという。日本での温室効果ガスの大幅削減を定量的に示したエビデンスがあるから実現できるという科学者としての提案を、産業界に受け入れてもらえない。そこで、偶然出会ったいろいろな職種の人たちに声をかけ、温暖化の取り組みに突破口があるのかを話す「どやどや会議」を始めた。お互いに何を考えているのかをどやどや話したことで、研究以外の多様な価値観を知り、実現する場としての都市に関心を持ち始めたのだ。「当時、2050年80%削減

を都市のスケールで実現したいと、真剣にシナリオを作っていました。でも、後から振り返れば、このときはまだまだ目線が高度1万5千メートルの上空でした。東京電力福島第一原子力発電所の事故が起きてから、福島をテーマにしたどやどや会議を仲間と始め、それがきっかけで、2011年6月に福島県の飯舘村で開かれた会議に参加したとき、いかに自分が何も役に立たないかということが身にしみてわかったんです」。勝手に計画を作ってもおよそ実現しないことに気づいた藤野さんは、ふくしま会議に熱にうなされたように力を注ぎ、ようやく、現場を見た。

実行できるチームをデザインする

日本で思考実験して培った経験が、マレーシア・ジョホールバルを中核とするイスカンダル開発地域における低炭素社会シナリオを開発する研究プロジェクトの展開に結びついた。「紙に書いて終わるのには関心がない」そう言い切る藤野さんは、研究成果が地域の行政計画に組み込まれることに力を入れてきた。シミュレーションによって出さ

異世界へのトビラを手に入れる方法

立場や物の見方の異なる人と、目線合わせのコミュニケーションをする

れる削減可能な数値の意味を現地の担当者に解説し、開発地域全体の計画に持ち込むための橋渡しをすることで、1年足らずの間に行政計画まで至った。日本での経験を活かすということは、行政計画に落とすやり方をそのまま当てはめることではなく、現地のメンバーの話を聞くことで現地の課題とメンバーの動機を引き出していくことにある。関係者の役割を活用したことにより、ものごとが円滑に進んだのだ。

その後、環境教育を展開する際にも、藤野さんは人づてに勉強して、マレーシアの研究メンバーを連れて日本の学校現場や関係者をめぐる視察調査を実施し、最終的に京都市の先進事例に行きついた。そのとき、マレーシアで改革を進める役割を担えるメンバー全員が先進事例を同時に視察したことが、共通のビジョンを思い描くことにつながった。その仕掛けを作るために、いろいろな人から話を聞き、現地での課題を明確にしていく過程を藤野さんは地道に積み上げている。「最初からしっかり巻き込まれていない人はやってくれないですよ。現地のメンバーがやりたいと思えるようにデザインすることで初めて実現できるんです。そのプロセスを省いては成り立ちません」。実行の要となる人たちをつなぎ合わせたチームを最初から狙ってデザインしてこそ、目標への確度

が上がるのだ。

SDGsを地域計画に落とし込んでいく

イスカンダル開発地域での環境教育プログラムは、計画通りのスピードでことが進み、京都市では6年かかった全校展開が、イスカンダル開発地域では3年で達成した。まずは今あるメカニズムをよく理解し、その中で少しでも動かせるものを動かしていく方法を取らないと変革ができないと藤野さんは言う。「現場のプランAをわかりながら、プランBをするという感じです。関係者のプランB側に向く動機をあぶり出すことが大切だと思うんです」。

環境の問題に関わってきた藤野さんは、SDGsを地域の実施計画に落とすことにも携わっている。「掲げた目標は大きくても具体的にすることが見えてこないときは、人のつながりによるプラットフォームで『どやどや会議』を繰り返し、同じ土俵に乗りながら一緒に伴走するチームがあってもいいのではないかと思うようになりました」。何よりも人との出会いで成長してきたという藤野さんの周りには人が集まり、研究成果として出した数値が現実の世界に落とし込まれていくのだろう。

(文・海浦 航平)

藤野 純一(ふじの じゅんいち) プロフィール

2000年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。同年4月より2019年3月まで国立環境研究所勤務。アジア太平洋統合評価モデルによる温室効果ガス排出シナリオ分析に従事。2004年から5年間、日本低炭素社会研究プロジェクトの幹事を務め、日本の二酸化炭素排出量を2050年に70-80%削減するシナリオを構築。主著書に「低炭素社会に向けた12の方策」(日刊工業新聞社)、「みんなの未来とエネルギー」(文溪堂)。



▲国連初の気候変動とSDGsシナジー会合の「世界と都市をつなぐ」セッション(2019.4.2.コペンハーゲン)発表後の集合写真

今回取材した3名の研究者は、普段の自分の世界を飛び出して、外の人と共に何か新しいことを始めようとしたことで、「異世界」とつながるトビラが開きました。

各々のユニークな取り組みを見ると、自分には真似できないように感じてしまうかもしれません。しかし、最初の一步に注目するとどうでしょうか。自分の考えをWebにアップすること、学会で意気投合した相手に具体的な計画を提案すること、とにかく相手の話を聞くこと。ここだけ見れば、誰にでも実践可能な、小さな一步ではないでしょうか。

その小さな一步を、繰り返すのが大切なのだと、今回取材した研究者たちは教えてくれました。自身の想いを発信し、異世界へのトビラを探してみてください。ワクワクした未来は、異世界に住むみなさん同士が繋がることで実現します。

異世界へのトビラを手に入れる方法

多様な意見を持つ仲間と、アウェイな人も巻き込む企画づくりをする
異なる専門性を持つ人と、研究の領域を開拓する議論を繰り広げる
立場や物の見方の異なる人と、目線合わせのコミュニケーションをする

探しに行こう 自分の場所

目標を見つけ、実力を養い、理想の場所にたどり着くために

どんな道を進むべきだろうか。

どんな研究者になりたいのか、活躍するには何が必要なのか。

そして、どんな研究キャリアがあるのか。

ただ、じっと待っていても答えは見つからない。

いろいろな人に会い、さまざまな場所を見ることで

自分の未来を描くヒントを見つけよう。

変化を楽しみながら

さあ、自分の場所を探しに行こう。



現場との連携を考え抜いて切り開いた道



樋口 貴広 さん

首都大学東京 人間健康科学研究科
ヘルスプロモーションサイエンス学域 教授

研究を社会の役に立つものにしようとするとき、研究者とは異なる価値観の人と連携することが必要になることもある。他者との連携も研究の1つかもしれない。首都大学東京大学院知覚運動制御研究室の教授である樋口貴広さんは、現場と研究の連携に取り組むことで自身の道を切り開いてきた。その過程で何を考え、どんな課題を乗り越えてきたのか、詳しくお話を伺った。

0 から 1 を作る難しさの中での発見

大学では心理学を専攻していた樋口さん。心理学に興味を持ったのは、中学生のころから打ち込んでいた陸上競技で「練習では絶好調なのに、本番になるとうまくいかない」という、スポーツ経験者なら誰もが感じたであろう体験がきっかけだった。「メンタルが身体の動きに与える影響を解き明かせたら面白いなと思ったんです」。所属した研究室は自主性を重んじ、学生は何でも好きなことを、先生の見守りの中で研究することができた。旺盛なモチベーションでゼロから研究テーマの立ち上げに取り組み、文献が他県にしかないとなれば出向き、精力的に毎日研究に取り組んだ。しかし、何もかもが初めての研究は1人ではなかなか進まなかった。理系の研究室と比べて、文系で大学院に進学する学生が少ない中で、樋口さんは大学院進学を決意した。「あまりに悔しくて、このままでは終われないと思ったんですよね」。一から研究を設計し直すと成果があった。人は身体を動かすとき、環境や自身のコンディションに合わせて、無意識に柔軟な調整をしているが、緊

張状態では練習などで習った動きを忠実にしようとする傾向が強くなり、結果として柔軟性が失われてしまうことがわかった。

偶然読んだ論文から運命をつかむ

新たな悩みも生まれ始めた。それは、実験的に再現できる心理状態の限界だ。スポーツ選手が感じる人生がかかっているプレッシャーと同じプレッシャーを心理学の実験で再現することはできない。「自分が見たいものと実験としてエレガントなものとの間には乖離がある、というジレンマがありました」。

自分はこれからどんな方向で研究を続けていくのかと悩んでいたとき、偶然勧められた本に、樋口さんに大きな衝撃を与える論文が掲載されていた。自分の肩幅の1.3倍の幅がある場所そのまま通り、それ以下であればぶつからないように無意識によける動作をするという。人間に備わっている無意識の行動原理の解明は面白いと感激した樋口さんは、新たに工学系の研究室のポスドクとして研究する際の研究課題を、車いす利用時の車幅感覚にした。もう1つ、大きな転機となった

樋口 貴広 (ひぐち たかひろ) プロフィール
東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士 (文学)。東北大学文学研究科講師、横浜国立大学エコテクノロジー・システム・ラボラトリー 講師、日本学術振興会特別研究員 (東京都立大学理学研究科) を経て、首都大学東京人間健康科学研究科助教となる。同大学准教授を経て2015年より現職。

のがリハビリテーションを支援する専門職 (リハ職) の方との出会いだ。転びやすい高齢者の理解につながるかもしれないという現場からの声で、リハ職の方と連携した研究を開始することになった。「実は、学生時代にリハビリ学校で心理学の講義をしたことがあったのですが、そこで出会った方々の熱心さや多角的なものの見方に感銘を受け、いつかこの人たちと仕事がしたいと思っていました」。いくつかの偶然が重なり、リハビリテーションへの研究成果還元という新たな目標へ導いてくれた。進むべき方向がクリアになり、世界が大きく広がった。

研究者が現場とのブリッジに取り組む

研究と現場との連携はそう単純ではなかった。研究は一般則としての傾向を明らかにするものだが、現場では「目の前にいる患者に今適切なこと」が求められる。研究には欠かせない対照群を設定することも、現場での測定では制限がかかる。「研究のニーズと現場のニーズとが一對一対応するわけではありません。お互いにできること、大切にしたいことを理解し合い、その上で一緒にできることを提案することの大切さを学びました」。研究成果が何でも現場に生きるものではないことを樋口さんは実感を持って知っている。リアルな現場を知ることで研究の考え方やアプローチも大きく変わり、次々と新たな「問い」も生まれた。

研究者として自分が目指す役割の模索は続いている。「日常的に患者さんと向き合っているリハ職の方との連携がなければ、研究成果の還元はできないと実感します。一方、研究はこれまで現場にあった経験則を数値化し、よりよいやり方の傾向を示すのに有効です。研究成果を現場に役立て



▲樋口さん (左) とインタビューアの森本 (右)

ることは一番の夢ですが、研究することの意義を現場の人にもっと分かりやすく伝え続けること、これも自分の役割だと思えるようになりました」。

博士の育成で切り開いた自分の道

樋口さんが大学教員として大切にしていることは、リハ職の方を社会人院生として受け入れ、現場を知っていながら研究もできる人材を育てることだ。研究と現場の連携がより価値のあるものになっていくよう、育てた学生がそれらをつなぐ架け橋となってほしい、それが樋口さんの思いだ。人材育成に力を注ぎながら研究を続け、現場に活かせる成果も少しずつ見えてきた。脳卒中の患者は脳の損傷の反対側の体に麻痺が起り、物にぶつかりやすくなる。しかし、麻痺している体側から前に進むようにすると、なぜかぶつからなくなることが分かった。詳細なメカニズムはまだ不明だが、脳卒中患者の空間認知や行動原理がわかれば、リハビリテーションの手法開発に役立てることができるとも思える。

誰も挑戦していない課題と手法に立ち向かい、試行錯誤を繰り返してきた樋口さんだからこそ、「研究で現場の役に立つ」という言葉に強い思いと重みがある。

記者、文・森本けいこ

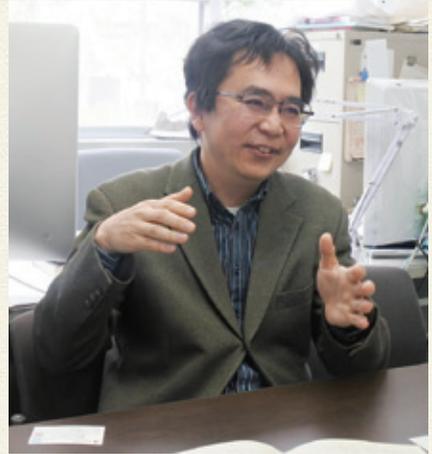
私はこころの不調に興味があって心理学を専攻しました。今回、研究についての考え方や社会実装のためには何が必要かなど、貴重なお話を記事にさせていただきました。

研究と教育の両方できる場 —— 高専のスズメ

庄司 良 さん

国立東京工業高等専門学校
物質工学科准教授・総合教育支援センター長

国立東京工業高等専門学校にて教鞭をとる、環境研究者の庄司良さんは、大学院博士課程在学時に工業高等専門学校（以下、高専）の存在を知った。10代後半の学生と共に自由に研究が取り組める場に魅せられ、高専の教員に。以降20年近く、高校や大学とは異なる、高専ならではの環境で試行錯誤を続けるうちに、庄司さんならではの研究と教育の両輪が回り始めた。庄司さんが研究活動の場として選んだ高専の面白さについて伺った。



好きなことはトコトン追求

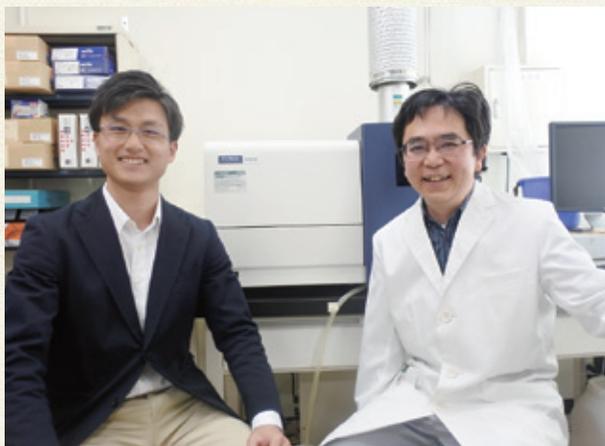
もともと好きなことにはトコトン打ち込む庄司さん。小学校の自由研究で行った河川上流から下流にかけての水質調査が、研究への原体験だった。「自分で調べて解き明かすことが面白く、夏休みは四六時中、調査研究をしていました」と嬉しそうに振り返る。大学に進学して研究への熱意はさらに加速。発電所などで酸性雨問題の改善のために脱硫装置として利用されてゴミとなる石膏（廃石膏）を利用して砂漠化を抑制するという、実際の社会に役立つ研究ミッションに出会い、庄司さんの野心を掻き立てた。学部卒業後には、社会に役立つためにウミガメ保全に関する事業立ち上げも考えてみたが、1つのことに集中することが向いていると思い、大学院へ進むことを決意。大学院の先輩が輝いているように見えたこと、指導教

員の勧めがあったことが後押しになった。

大学院では今の研究につながる、生物を利用した生態リスク管理について研究をした。そのような中、内地留学で高専から大学に来ていた先生と出会い、仕事として高専で研究するキャリアパスを知る。それまで、高専で自分の研究室をもって研究できることを知らなかった。博士取得後に一旦大学教員になったが、数ヶ月後には自由度が高く研究ができる高専の教員に思い切って転職することに決めた。「研究をとことんやることに全力を注ぐ」ことが、庄司さんを突き動かす力になったのだ。

研究を道具に教育を

研究スタイルに惹かれて高専に異動したものの、大学との環境の違いに戸惑った。15歳から20歳という大学生よりも若い学生を教えること



▲インタビューアの鈴木（左）と庄司さん（右）

庄司 良（しょうじ りょう）プロフィール
東京大学大学院工学系研究科化学システム工学
博士課程修了。国立東京工業高等専門学校物質
工学科准教授、同高専総合教育支援センター長、
環境計量士、自然観察指導員。専門は化学工学、
環境学。生態リスク管理や廃棄物の分析、生物
モニタリング、生物検定（バイオアッセイ）、迅
速簡便な汚染検出キットの開発などを行う。高
専にて教育活動に約20年従事する傍ら、社会
実装研究にも熱心に取り組む。

に加え、部活動の顧問などの務めもある。研究をしたくて高専に入ったが、最初は長い教育時間を正直負担に思っていた。しかし、気持ちが変わっていった。全力投球で研究活動を一緒にやることで、学生たちの目の色が変わっていったのだ。10代後半は人間的な成長や変化が著しく、人格形成の重要な時期にいる。特に印象的な経験が、「ある年受け持った、成績が学年最下位だった学生が、研究活動を通じて変化した」というもの。高専の教員としてのやりがいを感じた。「自分には教育が向いていないと思いながら続けていたが、研究を通じてひとりの人生すら変わるということを知り、だんだんと教育も楽しくなってきました」。「教育」と「研究」を別にするのではなく、「教育」に、自分の大好きな「研究」を活かす。「研究を魅力ある道具と考え、教育に活かすというのも、自分の生きる道としてありだと、認識を改めた」と語る。

野心を持って研究を続ける

教育に携わるとは、大学院進学時には想像もしていなかった庄司さんだが、今となっては高専での研究活動・教育活動に自分の哲学を持って臨ん

でいる。「研究者にとって重要なのは、野心である」と庄司さん。野心を持つことで、研究を学会発表して広め、論文として形に残し、学内に留まらせずに社会へと向けることにつながる。学会発表して初めて、研究の価値が評価されるという。そして、発表まで含めた研究の一連のプロセスを学生に指導することが人間的な成長を促す教育になる。「発表を意識して研究すると、研究の効率も意識も高まり、学びも深まる。これが研究を道具とした教育なのです。学生には、若いうちは少し無謀でも良いので、小さくならず、とんがりながら野心を持って挑戦してもらいたいですね」。20年間、10代の学生と向き合ってきた研究者が、研究することで見出した教育で大切にすることは、研究への姿勢と同じことだった。庄司さんは、今日も学生たちと野心を燃やしながら二人三脚で研究に励んでいる。

記者、文・鈴木 大輔

私は、現在も高専で研究を行う高専生です。日本では、高専というキャリアパスに対する認知度が低く、進路について思い巡らせている大学生や大学院生に届けたいと思いました。そこで、高専にて長年研究教育活動を続ける、庄司さんの思う高専の魅力を伺いました。

未来を掴む

「あんな研究者になりたい！」

目標が見つかったならば、そこに到達するための試行錯誤を繰り返し
一歩ずつ、でも着実に近づいていこう。

定める目標は、人それぞれ。

必要なことも、ひとりひとり異なるだろう。

共通するのはただひとつ、

やるべきこと、やりたいと思ったことを実際に行うこと。

最初は躊躇するかもしれないが、動いた分だけ目指す自分に近づくはずだ。

その一歩を踏み出すことで、見えるものが変わる。

自分の未来を、自分の手で掴みとろう。



contents

異分野の研究者の中で自分の研究を語ってみよう！ → P.19

社会の課題に触れ、自分の世界を広げよう！ → P.20-23

自分のアイデアで研究費を獲得しよう！ → P.24-25

研究と両立しながら、ビジネスを知ろう！ → P.26

異分野の研究者の中で自分の研究を語ってみよう！

こんな人におすすめ！

- ・異分野と連携して自分の研究を加速したい！
- ・新しい研究アイデアが欲しい！

超異分野学会

異分野の研究者、さらには町工場の職人、小学生まで、
あらゆる人が混じり合う混沌の世界で自分を試せ！



未来を
掴む

超異分野学会は、分野を超えたあらゆる研究テーマを集め、研究者・ベンチャー・企業・町工場・中高生など異なる立場の視点やアイデアを織り交ぜながら、新しい研究プロジェクトの種を生み出す場です。普段の学会でのコアな議論ももちろん大切ですが、これからは多くの分野が連携して問題を解決していく時代。異分野の研究者とのコミュニケーションは当たり前前の事になっていくのではないのでしょうか。他の学会やラボの中ではなかなか出会えない異分野の研究者に自分の研究をぶつけてみれば、きっと新しい発見があるはず。2019年3月8日、9日には、第8回超異分野学会が開催されました。次回は2020年3月6日、7日に実施予定です。今からスケジュールをチェックしておいてください！



▲研究者の熱を3分間で伝えるテクノロジー・スプラッシュ！



▲ポスター会場はカオスそのもの。様々な分野の研究者同士でディスカッションが繰り広げられました。

超異分野学会 地域フォーラム 参加者募集中！

本大会に先だって、各地で地域フォーラムも実施されます。東京の本大会に劣らぬ熱気で開催予定です！お近くの方はぜひこの機会をご活用ください。(アカデミアの方の聴講・ポスター発表は参加費無料です。)

超異分野学会 益田フォーラム2019

[大会テーマ] 市民参加型の研究プロジェクト始まる～医食農連携の新たな形～

[日時] 2019年7月25日(木) 10:00～15:30

[場所] 島根県芸術文化センター グラントワ



超異分野学会 富谷フォーラム2019

～水素活用実証都市から考える未来のエネルギー～

[日時] 2019年12月13日(金) 9:00～17:30

[場所] 宮城県富谷市 成田公民館



編集者より
一言

学生の時にテクノロジー・スプラッシュに参加し、研究への愛を伝えました！それをきっかけにポスター発表では普段と異なるディスカッションができ、とても有意義でしたよ！（内田）

社会の課題に触れ、自分の世界を広げよう！

こんな人におすすめ！

キャリアディスカバリー フォーラム2019

- ・これからのキャリアを考えたい
- ・自分の世界を広げたい
- ・自分の研究の社会的意義を考えたい

研究者の活躍の場を拡張する！

多様な社会の課題に触れ、自身の世界を広げるイベントです。



社会には解決が求められている多様な課題が山積していますが、解決の道筋をつくる力を持った人材は非常に少ないのが現状です。私たちリバネスは、未知の領域から問いを発見し、新たな知識を生み出す視点を持った研究者こそが、これからの世界で求められる人材だと考えています。しかし、大学の研究室で日々研究に打ち込む研究者が、社会を知る機会はあまり多くありません。CDFでは「今何の研究をしているか」「今どんな商品やサービスがあるか」といった内容ではなく、「何とかしたい社会課題」や「これから解明したい問い」を学生・若手研究者と企業で語り合います。これまで知らなかった広い世界を知ること、新たな活躍の領域を発見できる場です。

日時 6月22日(土) 9:00～18:00 (交流会18:00-19:30)

場所 ベルサール新宿グランド コンファレンスセンター
(東京都新宿区西新宿8-17-1)

参加予定者 学生・若手研究者 250名/企業 30社

主催 株式会社リバネス

参加希望の方は以下よりお申し込みください。参加企業情報の事前送付や、当日の名刺など企業とのコミュニケーションを加速するツールをご用意いたします。

URL <https://cdf.lne.st/>



| | 会場1 | 会場2 | 会場3 | ブース会場 |
|-------------|------------------------------------|-----------------------------|---------------------------|----------------------|
| 09:00～10:00 | 開会式・基調講演 | | | |
| 10:00～11:00 | CDF スプラッシュ 参加企業の1分ピッチ | | | |
| 11:00～12:00 | | | | ブースセッション (30分×2回) |
| 12:00～13:00 | 参加企業に聞く、 研究者との新たな挑戦 | 大企業の研究所長が語る、 これからの企業研究者 | 変化の時代を生きる、 研究者の多様な生存戦略 | ランチタイム交流 (フリートーク) |
| 13:00～14:00 | | | | ブースセッション (30分×2回) |
| 14:00～15:00 | 海外研究者は次のキャリアを LinkedInで探さってホント? | 研究×越境×ワクワクで 次世代の教育を生み出す | 人間理解を社会の価値に 変える研究者 | |
| 15:00～16:00 | | | | カフェタイム交流 (フリートーク) |
| 16:00～17:00 | ワークセッション | 東大キャリア教室で1年生 に伝えている大切なこと | 自分をアップデートさせる 研究者の過ごし方 | |
| 17:00～18:00 | | | | ブースセッション (30分×2回) |
| 18:00～19:30 | 閉会式・交流会 | | | |

参加企業より、1分間でブースセッションのテーマや、参加の思いをピッチします。コミュニケーションしたい企業を見つけるチャンスです。

キャリアディスカバリーフォーラムの活用方法

事前

自分を見つめる

●事前登録しよう

エントリーフォームの質問事項に回答し、考えを整理しよう

●参加企業の情報を見よう

「これから挑戦したいテーマ」をWebで公開します。当日話してみたい企業をチェックしよう

●1分間の自己紹介を準備しよう

ブースセッションは自己紹介からスタートします。以下のような内容を考えて来てください！

- どんな興味や好奇心を持った研究者か？
- 何を解き明かす／開発するために研究しているか？
- これから挑戦してみたいテーマやキーワード
- なぜこのセッションに興味を持ったのか？

当日

世界を広げる

多様な研究者の生き方を『知る』

パネルセッション

45分間の講演形式のセッションです。様々な場所で活躍する研究者、研究の社会実装を目指したベンチャー創業者、企業研究所の所長、研究者プラットフォームの発起人など、研究者の活躍の場を現在進行系で拡張している方々が登壇します。

企業が挑む、これからの『問い』と『出会う』

ブースセッション

少人数で議論する、30分間／回のブース型セッションです。企業からは「テーマ」を設定した理由とこれからの挑戦についてお話します。自身の興味や知識に紐づいたアイデアを話してみましょ。思いがけない世界の広がりがあるはず。 (テーマはP.22～23に掲載)

興味を持った企業と『議論する』

ワークショップ・カフェタイム

参加企業が提示するお題について、120分間集中的に議論するワークショップを行います。また、カフェタイムはもっと知りたい企業と自由にコミュニケーションをとることができます。

事後

出会った企業と「共創する」

当日に出会って終わりではなく、インターンシップや共同研究など、CDF当日に意気投合した企業と一緒にできそうなことがあるか、名刺交換をした企業の方と、より深くコミュニケーションをしてみましょう。人とのつながりが、次のチャンスにつながります。

東京大学 博士後期課程2年 (数学・物理学専攻)

異分野の、しかも企業の研究者に自身の研究内容を話す機会はこれまで少なく、最初は伝わるか心配でした。しかし、実際に話してみると思いがけない分野の企業が自分に興味を持ってくれました。数学・物理系の研究者の多くは金融系の企業に進むことが多いですが、パイオニアフォーマティクスの分野が私は印象的でした。新しいことに常に出会いたいということが私の研究の根幹にある想いと気づき、それに応えられる場所であれば分野にこだわりすぎる必要はないなど視野が広がりました。

横浜国立大学 研究員 (化学専攻)

博士、ポスドクのフェーズを経て、何か新しいコトを起こす事が自分のキャリアに繋がるという実感を持ち始めていた自分にとって、同じく新しい何かを社会に起こそうとする多くのベンチャー企業の社員との出会いが、非常に新鮮且つ魅力的でした。CDFを契機に自らの進路としてベンチャー企業が視野に入り、キャリアを模索した結果、CDFに参加していたベンチャー企業に就職し、自分のやりたいことや目標の実現に向けて邁進しています。

参加者の声

各企業のテーマはNext page!

株式会社IHI

未来の日本の電力事業について考えよう

再生可能エネルギーで全ての電力をまかなう世界(日本)を実現したい人、そのためのアイデアを持っている人

NOK株式会社

柔らかくしたら面白い、柔らかくして価値を変えたいものについて議論しよう!

研究分野にこだわらず、自分の考えを発信し議論してくれる方

紀州技研工業株式会社

モノにいのち(情報)を吹き込むことで、新しい可能性を生みだそう

注意深く物事を観察できる人。論理的に議論を組み立てられる人。面白いと思った事に熱中できる人

小橋工業株式会社

『地球を耕す』:あなたは何を耕し、地球の課題を解決するか?

何かを変えたい・改善したいという志を持った人、ものづくりに興味がある人

株式会社シグマクス

2050年、テクノロジーは社会の常識をどのように変えるか?

自分達が置かれている環境を見直す力(=ブジャデ)を持ち、他人と建設的に議論を組み立てられる人

ヤンマーホールディングス株式会社

次の100年の新しい豊かさを、地球規模の視点で考えよう!

好奇心を持ち、情熱を行動に変えるエネルギーに溢れた人

アサヒクオリティアンドイノベーションズ株式会社

「食」をとりまく世界に大きな影響を与えうる研究・技術開発を考えよう

医・薬・食の研究者に限らず、情報や工学など食との結びつきの薄い分野で研究をしている人

株式会社オプティム

時代が求める、研究のその先にあるキャリアとは

「研究者として磨き上げてきた自分が、これからのビジネス界で活躍するためには?」を考えたい人

コニカミノルタ株式会社

画像・動画処理を使ったIoTやAIの可能性とは?

画像IoT/AIなどの技術で未来の社会を作っていきたい人

株式会社ジェイテクト

AI・ロボット・MaaS~マイカーがなくなった未来の「移動・暮らし」を考えよう~

幸せとは何か、の追究に興味がある方

株式会社デンソー

エネルギー効率のよい「暮らし」「家族」「働き方」とは?その時、人とモノはどう移動しているか?

科学の力で地球の生態系に調和したスマートな暮らしを実現したい人、車に興味がない人

株式会社ユーグレナ

「人と地球が健康な未来」へのロードマップを設計しよう

人と地球を健康にしたい人、宇宙・メディカル分野などを開拓したい人

他、30社以上が参加予定です。他のセッションの内容、参加企業情報は随時Webページにて公開いたします!

URL <https://cdf.lne.st/>

ブースセッションでは、企業がこれからのチャレンジや解決したい課題をテーマとして提示します。あなたはこの問いに対してどんな仮説を立てますか？研究者ならではの視点や、あなたの研究領域だからこそ知っている知識を持ち込んでみてください。

| |
|-------------|
| 企業名 |
| ディスカッションテーマ |
| メインターゲット |

未来を掴む

MSD株式会社

**人々の生命を救い、生活を改善する
革新的なビジネスとは何か**

社会・企業との付き合い方含めキャリアについて相談したい人、MSDやミッションに興味がある人

株式会社ガルデリア

**我々が立ち向かうべき「地球規模の課題」と
藻類関連技術で解決できる可能性とは？**

ゼロベースで考え、開発するチームワーカー

コネクテックジャパン株式会社

次のIoT社会で開発したいセンサー技術とは？

さまざまな人と議論しながら試行錯誤するもの作りが好きな人

株式会社自律制御システム研究所

**「空がどう変わるのか、変わるべきなのか」
について考えよう**

空が好きな人

株式会社DG TAKANO

**あなたの研究とデザイナーのコラボレーションで、あな
たの人生を変える、もう1つの研究テーマを考えよう**

今、研究がめっちゃ楽しい人・デザイナーと話したことがない人

株式会社バイオインパクト

**研究世界の地図を描き、
新たな知識への道筋を示そう**

研究世界の地図を描きたい人、研究データベースを活かして新しいことを仕掛けたい人、研究インフラや社会実装に関心のある人

株式会社ビービット

**アフターデジタル時代における人間：
労働・仕事・活動**

人間理解をビジネスに活用することに興味がある人・現代における省察的实践に関して興味のある人

株式会社ファームステーション

**発酵で楽しい社会を！
未利用資源を発酵させて何を生み出しますか？**

発酵、微生物に興味があり、未利用資源を活用した様々な実験、検証を一緒にやりたいチャレンジャー

株式会社フロンティアコンサルティング

**オフィスと働き方の研究で、
人生の10万時間を豊かにしよう！**

未来の働き方を構想したい人、人とテクノロジー・環境の関わりに興味がある人

株式会社メタジェン

10年後のサイエンスとヘルスケアビジネス

「病気ゼロ」の実現に向けて一緒にわくわくして未来を語る人

株式会社ラングレス

**異種の生き物同士の
コミュニケーションが可能になる未来**

言語を介さない新しいコミュニケーションによる、生き物との対話に興味がある方

株式会社リバネス

**研究者として、社会に
どんな貢献をしたいと思いますか？**

サイエンスとテクノロジーを愛している人

編集者より一言

私も企業に来てから、ラボでは見えない産業界ならではの研究テーマが多くあることに気づきました。取り組み甲斐のある挑戦と仲間を発見し活躍の場を広げてください！（江川）

自分のアイデアで研究費を獲得しよう！

こんな人におすすめ！

リバネス研究費

- ・試してみたい研究アイデアがある
- ・独立後に向けて研究費申請の経験を積みたい

心の中に秘めた研究アイデア、
自分の力で研究費を獲得して始めてみませんか？



リバネス研究費は、「科学技術の発展と地球貢献の実現」に資する若手研究者の研究遂行を支援するための研究助成制度です。自らの研究に熱い思いを持ったアクティブな若手研究者（学部生・大学院生～40歳以下）であれば、誰でも応募できます。これまでに大学院生の採択実績も多数あり、様々な方の応募を歓迎しています。若手研究者の自由な発想と行動を促進すべく、本助成制度で支給される研究費は、原則として使用用途に対する制限を設けていません。採択者の希望に応じて自由に活用できる研究費となります。この機会に、自分の研究アイデアをブラッシュアップし、研究スタートへの第一歩を踏み出しましょう！



意志ある一歩が未来を拓く 研究応援プロジェクト

第45回リバネス研究費 申請者募集中！

◎ 大正製薬ヘルスケア・ビューティケア賞



対象分野

人々の健康と美に寄与するあらゆる研究

本能・感性・五感に関わる研究、情報工学・人間工学・行動科学・認知科学・生命科学、機能性素材、処方設計・製剤化技術など、あらゆる分野からのアプローチを募集します。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2019年7月31日（水）24時まで

担当者
より
一言

大正製薬は、「人々の健康でより豊かな暮らしの実現に貢献する」ことを理念とし、様々な事業に取り組んできました。ヘルスケアの概念は既に治療から予防に変わりつつあり、またテクノロジーの発展により、健康管理や美との向き合い方はさらに変化しています。その一方で、人が本能的に求めるもの、健康で美しくいるために本当に必要なものは古来から変わらないのかもしれませんが。本研究費を通じて、人の「健康」と「美」についてあらためて考え、新たな価値を生み出すチャレンジを行っていきたくと考えます。まだ研究の種でも構いません。ヘルスケア・ビューティケアの世界で、共に研究に取り組んで下さる方をお待ちしております。

◎ 日本の研究.com賞



対象分野

研究世界の地図を描き、
新たな知識への道筋を創り出すためのあらゆる研究

日本の研究.comを活用することで実現する「研究者と新たな知識の遭遇」をテーマとして、あらゆる研究を募集します。哲学・デザイン・アート・論理学・数学・歴史・文学・社会科学・心理学・プロセスシステム工学・情報工学・科学社会学などあらゆる分野の研究者からの応募をお待ちしております。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円

申請締切 2019年7月31日（水）24時まで

担当者
より
一言

日本の研究.comは競争的資金の研究課題をもとに構成した国内随一の研究課題データベースです。国内で行われている研究の動向や、研究者同士の関連等のデータを有しています。私たちは日本の研究.comのデータベースを用いて、誰もが過去の知見を基に新たな知識を生み出せる世界を作りたいと考えています。そのために、新たな知識に到達するための道筋、道筋を見極めるための研究世界の地図、を共に議論し、創っていく仲間を求めています。

採択者発表

第42回 日本ハム賞

採択者 佐伯 真二郎(さえき しんじろう) NPO法人食用昆虫科学研究会 理事長

研究テーマ ラオス農村部の栄養改善をめざした昆虫養殖支援事業におけるヤシオオサズムシ飼料の最適化に関する研究

第42回 ホメオスタシス調節研究推進賞

採択者 久松 大介(ひさまつ だいすけ) 慶應義塾大学医学部 生理学教室 博士後期課程3年

研究テーマ 恒常性維持因子のがん微小環境の改善による革新的術前補助療法の開発

第43回 三井化学バイオエッジベンチ賞

採択者 清水 雅士(しみず まさし) マイクロバイオファクトリー株式会社 代表取締役社長

研究テーマ ヒドロキシチロソール生産菌の大量培養に関する研究開発

リバネス研究費の登録および採択情報はこちらから▶

<https://r.lne.st/grants/>



◎ 老化制御研究推進賞

対象分野

生体の老化機構あるいは
老化に伴う生体内の変化に関する研究

採択件数 1件

助成内容 研究費50万円

申請締切 2019年7月31日(水) 24時まで

担当者
より
一言

老化研究は食事、睡眠、活性酸素など様々な要因からアプローチされていますが、今回の募集ではこうした既存の要因だけにとらわれず、様々な視点からのアプローチをお待ちしています。さらに、老化の亢進・抑制、あるいは細胞の状態の巻き戻し(例えば若返りなど)に関わる物質の研究についても申請をお待ちしています。また、申請を通じて自分のフィールド以外の研究者や企業とも老化の研究を推進していきたい人を歓迎いたします。

◎ 吉野家賞

対象分野

働くひとの付加価値を向上させるためのあらゆる研究

ロボット、データサイエンス、情報通信、XR、コミュニケーション、薬学、医学、材料工学、電子工学、人間行動学、心理学、経済学、建築学、デザイン、ものづくり、など幅広い科学・技術分野の研究を募集します。

採択件数 若干名

助成内容 研究費50万円+

店舗等を研究・実証試験フィールドとして提供

申請締切 2019年8月31日(土) 24時まで

担当者
より
一言

世界中で多くの雇用を生み出している飲食業界ですが、人手不足や、原価などコストの上昇の他、食の安全、従業員のスケジュール管理、業務効率の改善等、様々な課題と日々向き合っております。「ひと、健康、テクノロジー」をキーワードに掲げる吉野家では、ひとのいない無人店舗を目指すわけではなく、ひとがやらなくても良いことはロボットやAIなどのテクノロジーを駆使し、一方で、新たな付加価値の創造のため、お客様とのコミュニケーションを大切に、働くひとの生産性向上を目指しています。今回の研究費はすぐに実装できることでなくても大丈夫です。分野を問わず自由な発想で、生産性を向上させる研究テーマを募集します。採択されたアイデアには研究費をお渡しするだけでなく、実際に吉野家の店舗等を活用した研究や実証試験も全面的にご協力いたします。



編集者より
一言

50万円自由に使えて領収書もいらない!若手研究者に優しい研究費です。応募対象分野が広いので、研究費テーマ×自分の研究分野をお題に新たな研究アイデアを考えてみませんか?(重永)

研究と両立しながら、ビジネスを知ろう！

株式会社リバネスの インターンシップ

こんな人におすすめ！

- ・科学コミュニケーションの能力を高めたい
- ・自分のやりたいことを見定めたい
- ・やりたいことがあり、仲間がほしい



研究をしていてこんなことを思ったことはありませんか？「自分の研究経験はどんなことに活きるのだろうか」「研究ばかりやってきたが、学生のうちにビジネスに触れてみたい」。そんなあなたの想いを実現できるのがリバネスのインターンシップです。研究室との両立ができるよう、会社に足を運ぶのは毎週日曜日に設定しています。あなたの研究経験と情熱を活かしたビジネスに、挑戦してみませんか？

Q インターンシップに参加したらどんな活動ができますか？

A 参加できるプロジェクト例をご紹介します。

実験教室の実施・雑誌制作

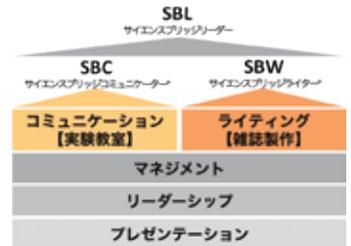
研究の魅力を語る出前の実験教室サービスの企画・運営のほか、本誌『incu-be』や中高生向けの科学雑誌『someone』の記事の企画、取材、執筆に挑戦できます。



Q インターンシップで鍛えられる力はなんですか？

A 社会課題に目を向け、科学技術を活かして世の中に貢献していく人材に必要な基礎力を鍛えることができます。

リバネスのインターンシップに参加することで、科学技術をわかりやすく伝えるスキルと共に、プレゼンテーション、リーダーシップ、マネジメント、コミュニケーション、ライティングの各種スキルを、実験教室や雑誌制作を通じて鍛えることができます。認定要件をすべて満たし、面接を経ると、「サイエンスブリッジコミュニケーター® (SBC)」の資格を得ることができます。



Q インターンシップに参加するには？

A 研究室との両立ができるよう、週 1 回、毎週日曜日に開催しています。いつからでも参加可能ですので、まずは一度見学にお越しください。

インターンシップ参加申込・問い合わせ <https://lne.st/recruit/intern/>
【インターンシップ募集要項】

参加期間：半年以上 2 年以内、基本的に毎週日曜日に参加できること

参加者：学部 3 年生以上を推奨

開催場所：リバネス東京本社 / リバネス大阪事業所

給与：取材・雑誌媒体への記事制作費 / 実験教室当日の人件費・交通費のみ支給



【インターン生の声】実験教室の企画づくりを通して

リバネスの実験教室は、「今研究をしている大学生・大学院生が研究の魅力を子どもたちに直に伝える」という点が大きな魅力です。先日、私は DNA 抽出実験を題材にした実験教室の講師を務め、「疑問を抱いて考える楽しさ」を伝えるための企画づくりを他のインターン生らと行いました。リバネスの実験教室は、自らの研究について振り返り、研究者として自分の思いを語る機会にもなります。

(中尾 知美)



編集者より一言

異分野の研究者と仲間になり、共に何かを作り上げるという経験はあなたの能力を劇的に変化させるはずですよ。みなさんと一緒に活動できるのを楽しみにしています！（重永）

研究者の力と情熱で社会の課題を解決したい方 株式会社リバネスでは一緒に働く仲間を募集しています!

専門分野の知識や研究経験を武器に、未来の社会を自らの手で作っていきたい、そんな思いを持ったあなたのご応募をお待ちしています。

リバネスの採用についてのページはこちらから
社員の事例紹介、募集要項などを掲載しています



リバネスの仲間になるまで

全てのプロセスが必須ではありません。面談を重ねながら、個々に合わせたフローをおすすめしていきます。



「Visionary Cafe」で会いましょう!

創業者の熱に触れる リバネスキャリアイベント「Visionary Cafe Tokyo」

リバネスは、1人1人がもつ「熱」を大事にしている会社です。リバネスのことを知ってもらうには、役員陣の「熱」に触れてもらわなくては。私たちはそう考えて、役員とのランチセッション「Visionary Cafe」にしました。何か「熱」を持って取り組みたいと思っている方、個性豊かなリバネスの役員に、自分のアイデアをぶつけてみませんか?

第27回 Visionary Cafe Tokyo

日時：2019年8月18日(日) 10:30 ~ 13:00 (11:45よりランチ)

場所：株式会社リバネス 東京本社 (東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル4階)

参加費：1000円(ランチ代)

申込み：<https://r.lne.st/2019/05/21/vc-tokyo-27/>



リバネス 大阪本社採用を開始しました

新しい「知識製造の拠点」を共に創る仲間、募集します

株式会社リバネスは、2006年8月に大阪事業所を開設して以来、関西圏の小中高校での出前実験教室の実施や、若手研究者向けのインターンシップなどの人材育成を行ってきました。2017年からは、大正区や港区をはじめとする町工場のパートナーとともに、テクノロジーベンチャーの支援を開始。2018年にはさらに研究開発や事業創造を加速するため、「大阪本社」を新たに設置し、熱を持った人材の採用を独自に開始しました。

大阪採用第1号社員インタビュー

博士人材が社会で活躍する場を拡げたい

濱口 真慈 大阪大学大学院博士後期課程修了 博士（理学）



私が研究の道を志したのは「人の役に立ちたい、治すことのできない病気を治せるようにしたい」という思いがあったからです。生物系の専攻に進み、在学中は、神経伝達の高速度を可能にしているミエリンの研究を行っていました。ミエリンの異常は、手足の麻痺や記憶障害など、さまざまな神経症状を呈します。研究は楽しく、どんだのめり込んでいきました。しかし、D2の頃、ふと進路選択に悩みが生まれました。博士号取得者の進路は、そのほとんどが、アカデミアに残るか、企業の研究所に就職するか、

といったものだと思います。進路の選択肢の少なさに、閉塞感を感じました。博士号取得者は、研究の過程で専門知識を蓄積し、研究課題や仮説の設定を行い、それを自ら検証するという経験を積んできています。「その経験を研究職以外の領域に応用することはできないのだろうか。もっと多くの活躍の場はないのだろうか」。そんなことを考えていたときに、リバネスの存在を知ったのです。

入社を決意したきっかけは、大阪本社で開催された「Visionary Cafe」でした。そこでは社員の方と参加者がそれぞれの夢やアイデアを語るのですが、ある参加者が壮大なプロジェクトを語ったのです。そのアイデアは本当に壮大で、突拍子もなく聞こえたので、私は否定の声を発する人が出てくるのではないかと思いました。しかし、リバネスの社員の皆さんは大いに盛り上がり、次々と肯定的なアイデアを出していました。個人の熱を尊重し、多様なアイデアを受け入れる文化に可能性を感じたのです。私も何度も自分の思いをプレゼンテーションし、社員になりました。これから、博士人材が活躍する場を広げるべく、活動していきます。（文・石尾 淳一郎）

大阪本社で会いましょう！

創業者の熱に触れる

リバネスキャリアイベント「Visionary Cafe Osaka」

リバネスは、1人1人がもつ「熱」を大事にしている会社です。リバネスのことを知ってもらうには、役員陣の「熱」に触れてもらわなくては。私たちはそう考えて、役員とのランチセッション「Visionary Cafe」を開きます。何かに「熱」を持って取り組みたいと思っている方、個性豊かなリバネスの役員に、自分のアイデアをぶつけてみませんか？

■ 第9回 Visionary Cafe Osaka

日時：2019年7月21日（日） 15:30～17:00

場所：株式会社リバネス 大阪本社（大阪府大阪市港区弁天1-2-1 大阪ベイトワーオフィス6階）

参加費：500円（ドリンク・軽食代）

申込み：<https://r.lne.st/2019/05/17/vc-osaka-9/>



採用に関する問合せ

株式会社リバネス 大阪本社（担当：磯貝） E-mail：west@lne.jp



人材応援 プロジェクト

私たち株式会社リバネスは、知識を集め、コミュニケーションを行うことで新しい知識を生み出す、日本最大の「知識プラットフォーム」を構築しました。教育応援プロジェクト、人材応援プロジェクト、研究応援プロジェクト、創業応援プロジェクトに参加する多くの企業の皆様とともに、このプラットフォームを拡充させながら世界に貢献し続けます。

(50音順)

| | |
|---------------------------|--------------------------|
| 株式会社アーステクニカ | 武田薬品工業株式会社 |
| 株式会社 IHI | 株式会社竹中工務店 |
| 藍澤証券株式会社 | 株式会社ダスキン |
| アサヒ飲料株式会社 | THK 株式会社 |
| 株式会社朝日新聞社 | 株式会社 DG TAKANO |
| アストラゼネカ株式会社 | 帝人株式会社 |
| 株式会社池田理化 | 株式会社デンソー |
| ウシオ電機株式会社 | 東京東信用金庫 |
| 内田・鮫島法律事務所 | 東宝株式会社 |
| 江崎グリコ株式会社 | 東レ株式会社 |
| SMBC 日興証券株式会社 | 凸版印刷株式会社 |
| NOK 株式会社 | 日鉄エンジニアリング株式会社 |
| 株式会社荏原製作所 | 株式会社日本政策金融公庫 |
| MSD 株式会社 | 日本ハム株式会社 |
| 株式会社オプティム | 日本たばこ産業株式会社 |
| オムロン株式会社 | 日本ユニシス株式会社 |
| オリエンタルモーター株式会社 | パーク 24 株式会社 |
| オリックス株式会社 | 株式会社バイオインパクト |
| 株式会社カイオム・バイオサイエンス | 株式会社パイオニア・コーポレーション |
| 川崎重工業株式会社 | 株式会社浜野製作所 |
| 関西電力株式会社 | 株式会社バンダイ |
| 紀州技研工業株式会社 | 株式会社ビービット |
| 協和発酵キリン株式会社 | 株式会社日立ハイテクノロジーズ |
| 協和発酵バイオ株式会社 | 株式会社フォーカスシステムズ |
| 株式会社グローカリンク | 株式会社フロンティアコンサルティング |
| コニカミノルタ株式会社 | ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社 |
| 小橋工業株式会社 | 本田技研工業株式会社 |
| サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社 | 株式会社 MACHICOCO |
| 株式会社ジェイテクト | 三井化学株式会社 |
| 敷島製パン株式会社 | 三菱電機株式会社 |
| 株式会社シグマクス | 株式会社メタジェン |
| 株式会社資生堂 | ヤンマーホールディングス株式会社 |
| EY 新日本有限責任監査法人 | 株式会社ユーグレナ |
| セイコーホールディングス株式会社 | 株式会社吉野家ホールディングス |
| 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 | リアルテックファンド |
| 大正製薬株式会社 | ロート製薬株式会社 |
| 大日本印刷株式会社 | Rolls-Royce Holdings plc |
| 株式会社タカラトミー | |

研究応援教員とは

研究の世界に踏み出そうとしている学生に対し「研究キャリア」を考えるきっかけを学生に提供するため、『incu・be』の配布等にご協力くださる先生方を募集しております。『incu・be』を毎号、ご希望の部数を無料でお届けする他、リバネス研究費やキャリアイベント等のお知らせをメールにてお送りいたします。ご協力いただける場合には、下記のフォームからご登録をお願いします。

<https://lne.st/ru>



研究応援教員 (敬称略) 582 名 (一部掲載)

- 【愛知学院大学】市原 啓子
- 【会津大学】寺蘭 淳也
- 【藍野大学】外池 光雄
- 【茨城大学】中平 洋一
- 【宇都宮共和大学】須賀 英之
- 【江戸川大学】浅岡 章一、福田 一彦
- 【大阪大学】佐藤 尚弘、井上 克郎、久武 信太郎、瀬恒 謙太郎、池田 裕香、岡本 行広、大竹 文雄
- 【大阪工業大学】河村 耕史
- 【大阪市立大学】蔡 凱、中臺 枝里子、立花 太郎
- 【大阪電気通信大学】鄭 聖熹
- 【大阪府立大学】竹井 邦晴
- 【学習院大学】武田 晃司
- 【鹿児島大学】片野田 洋、上田 岳彦
- 【神奈川工科大学】白井 暁彦
- 【金沢大学】ゴトウ ヒロシ
- 【関西大学】河原 秀久、片倉 啓雄、工藤 宏人
- 【九州大学】吉村 淳、近藤 哲男、清水 邦義
- 【京都大学】山口 栄一、五味 良太、川本 純、今村 公紀、大日向 耕作、中野 伸一、宮野 公樹、望月 伸悦
- 【京都産業大学】川根 公樹
- 【京都府立大学】高野 和文
- 【京都府立医科大学】小野 勝彦、角田 圭雄
- 【近畿大学】生塩 研一
- 【熊本大学】杉本 学、米本 幸弘、佐々木 満
- 【慶應義塾大学】久保 健一郎、中西 泰人
- 【宇都宮大学】阪口 利文
- 【高エネルギー加速器研究機構】大谷 将士
- 【工学院大学】三木 良雄
- 【高知大学】仲嶺 真
- 【甲南大学】久原 篤
- 【神戸大学】影山 裕二
- 【埼玉県立大学】国分 貴徳
- 【滋賀大学】大平 雅子
- 【滋賀医科大学】平和 和也
- 【静岡大学】成川 礼、松井 信
- 【鳥根大学】秋吉 英雄
- 【首都大学東京】可知 直毅、酒井 厚
- 【城西大学】片倉 賢紀
- 【信州大学】清水 雅裕、片岡 正和
- 【成城大学】境 新一
- 【千葉工業大学】坂本 泰一
- 【中央大学】松永 真理子
- 【筑波大学】鈴木 石根、永田 毅、林 洋平
- 【帝京大学】黒沢 良夫
- 【東京大学】牧野 義雄、有岡 学、梅田 靖、木下 裕介、川越 至桜、生長 幸之助、四本 裕子、矢作 直也、松尾 豊、佐々木 和浩、松田 良一、柳澤 大地、深野 祐也、田中一敏、飯塚 怜、池尻 良平
- 【東京海洋大学】戸田 勝善、濱田 奈保子、浦野 直人
- 【東京工科大学】中村 真男
- 【東京工業大学】因幡 和晃、猪原 健弘、田岡 祐樹、大上 雅史、大橋 匠
- 【東京工芸大学】大海 悠太、森山 剛、細萱 敦
- 【東京歯科大学】武田 友孝
- 【東京農業大学】相根 義昌、安田 麟太郎、松林 尚志
- 【東京農工大学】山浦 紘一
- 【東京理科大学】金子 敏宏、山本 誠、諸橋 賢吾、生野 孝
- 【同志社大学】石浦 章一、太田 哲男、下嶋 篤
- 【東北大学】大関 真之、齋藤 将樹、山 翔平、鈴木 高宏、西村 君平
- 【東洋大学】梅原 三貴久、廣津 直樹、清水 文一
- 【徳島文理大学】徳村 忠一
- 【鳥取大学】久郷 裕之
- 【富山大学】古澤 之裕
- 【富山県立大学】立田 真文
- 【長崎大学】松本 健一
- 【名古屋大学】佐藤 綾人
- 【名古屋工業大学】小田 亮
- 【日本大学】伊藤 賢一、渡邊 泰祐、福田 昇、浅井 朋彦、佐甲 徳栄、畠山 吉則
- 【日本女子大学】宮崎 あかね
- 【日本医科大学】若林 あや子
- 【ノートルダム清心女子大学】小林 謙一
- 【光産業創成大学院大学】瀧口 義浩
- 【広島大学】長沼 毅
- 【福井大学】沖 昌也
- 【福島大学】大橋 弘範
- 【法政大学】小池 崇文、吉田 一朗
- 【北海道大学】河西 哲子
- 【宮崎大学】山崎 有美
- 【武庫川女子大学】升井 洋至
- 【山形大学】戸森 央貴
- 【山梨大学】浜田 駿
- 【横浜国立大学】金子 信博、為近 恵美
- 【立教大学】関根 靖彦、山田 康之、亀田 真吾、塩見 大輔
- 【立命館大学】野口 拓
- 【琉球大学】浦崎 直光、與那 篤史、千住 智信、荒川 雅志
- 【早稲田大学】尾形 哲也、小塩 真司、田中 宗、玉城 絵美

(2019年5月20日現在)

若手研究者のための研究キャリア発見マガジン『incu・be』とは

『incu・be』は、目標を見つけ、それに向かって実力を養い (incubate)、未来の自分をつくり出す (be) ためのきっかけを提供します。自らの未来に向かって主体的に考え行動する若手研究者を、企業・大学とともに応援します。

『incu・be』の配布・設置について

『incu・be』は、全国の理工系大学・大学院の学生課・就職課・キャリアセンター等に設置いただいているほか、「研究応援教員」のご協力により研究室や講義にて配布いただいております。学校単位での配布・設置をご希望の場合、その他お問い合わせは下記までご連絡ください。

株式会社リバネス incu・be編集部

TEL : 03-5227-4198

E-mail : incu-be@Lne.st

中高生のための研究キャリア・サイエンス入門
『someone』(サムワン)



研究をはじめたばかりの読者に、最先端の研究内容をご紹介します。
未来の研究仲間となる後輩にお勧めください。
お問い合わせ : someone@leaveanest.com

++ 編集後記 ++

考えの違う人と話すことはとてもエネルギーを要するものです。でも、こうあってほしいというお互いの世界観を重ねることができれば、そのエネルギーのぶつかり合いでもっと素晴らしい未来が創られるのだらうと思います。突然、新しいものが出てくるわけではないでしょう。多くの人の一步一步の交流が渦を巻いていき、その蓄積の先に、結果として新しい世界が見えてくるのだと、今回の編集を通して感じることができ、私も力が湧いてきました。どこまでも広いその世界で自分の場所がどこか探し、見つけ、また別の世界観を感じて前進していくことができれば、それは幸せな生き方ですね。(井上 麻衣)



2019年6月1日 発行

incu・be編集部 編

staff

編集長 井上 麻衣

art crew 宮崎 ひかり

古川じゅんこ

清原 一隆 (KIYO DESIGN)

編集 楠 晴奈/磯貝 里子/重永 美由希/

武田 隆太/藤田 大悟

記者 石尾 淳一郎/内田 早紀/江川 伊織/

海浦 航平/新庄 晃太郎/鈴木 大輔/

伊達山 泉/宮原 陽佑/森本 けいこ

発行人 丸 幸弘

発行所 リバネス出版(株式会社リバネス)

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4

飯田橋御幸ビル5階

TEL 03-5227-4198

FAX 03-5227-4199

E-mail incu-be@Lne.st (incu・be編集部)

リバネスHP <https://lne.st>

印刷 株式会社 三島印刷

© Leave a Nest Co., Ltd. 2019 無断転載禁ず。

incu・be ゆる投票

今日も研究お疲れさまです。

以下の質問に答えて、少しでもリラックス♪

QRコードを読み込むだけで投票は完了。

疲れた心を癒す(かもしれない)画像が見られます

Q. 今日朝から



ほとんど声を 人としゃべり
出していない 続けている

前号の 投票結果♪

今「何時」ですか?

みんなが起きてる時間 60%

みんなが寝てる時間 40%

意外と夜中に『incu・be』
読んでます?